

第 13 回日本健康運動看護学会学術集会 大会長挨拶

大会長 串間 敦郎

宮崎県立看護大学看護学部看護学科教授

この度、日本健康運動看護学会学術集会第 13 回大会が、神々のふるさと、天孫降臨伝承の地である宮崎で、4 年振りに 11 月 5 日宮崎市フェニックスシーガイアリゾート内シーガイアコンベンションセンターにて開催されることになりました。全国の会員の皆様を心より歓迎いたします。

コロナ禍の中、一年延期して開催された東京オリンピック・パラリンピックは、多くの国民に感動を与え、スポーツの持つ力を実感させたことと思います。東京オリパラに出場した競技者が主役であったことはもちろんですが、その陰では競技者を支える多くの人達の存在がありました。メディカルサポートが無ければ、この大会は開催できなかったことでしょう。スポーツ大会のメディカルサポートにおいて、ナースの役割は今後ますます増えていくと思われます。また、大会サポートだけでなく、日常のスポーツ活動や健康運動の場面、健常者だけでなくパラスポーツの支援においても、看護職者が看護の専門性を発揮し多職種と連携しながら活用の方がさらに広がっていくことを願い、本学術集会のテーマに「健康支援とスポーツサポートにおける多職種連携 一看護の専門性の発揮に向けて」を掲げさせていただきました。

今回、シンポジウムでは、競技者を支援している方と支援されている方達をシンポジストとしてお招きし、「健康スポーツナースへの今後の期待」について議論していきたいと思っています。特別講演は、向井直樹先生（筑波大学）と奥松美恵子先生（日本パラ陸上連盟）のお二人に、教育講演では菅原康史先生（DONOW）にご講演いただきます。ランチョンセミナーでは、鶴田来美先生（宮崎大学：本学会理事長）からあらゆる年代別に対応した健康運動の紹介後、意見交換を行っていただけることになっています。今回、対面での開催を予定していることから、皆様から多くのご意見等いただき、活発な議論ができますことを祈念いたします。

会場地となるフェニックスシーガイアリゾートは、宮崎市東部の雄大な太平洋に面した一ツ葉海岸沿いにあり、フェニックスゴルフトーナメントの開催やラグビー日本代表の合宿地などスポーツイベントや野球やサッカーの合宿地として有名です。また周辺には、みそぎ発祥の地といわれる阿波岐原など「古事記」「日本書紀」の神話にまつわる名所旧跡が多くあります。少し足を延ばせば青島や高千穂峡など、パワースポットといわれる観光地も多くあります。また宮崎は豊かな自然に恵まれ、全国的に有名な食材が多くあるなど、学術集会参加の折に是非多くの地を訪れていただき、宮崎ならではの食をご堪能いただければと思います。皆様の多数のご参加をお待ちしております。